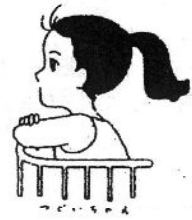


よかよかそのまままで きてみんな 西海路 させぼへ

第16回 登校拒否・不登校問題

全国のつといに長崎



どなたでも気軽にご参加ください

語りあおう 学びあおう 子どもたちをまん中に

わが子の登校拒否・不登校に
悩むお母さん、お父さん、
ともに悩み、心をくだしている
みなさん、西海路させぼで全国の仲
間たちと想いや悩みを語り合いま
しょう

と き 2011年8月27日（土）～28日（日）

ところ 九十九島観光ホテル

長崎県佐世保市鹿子前町 740 番地 TEL. 0956-28-2111

受付 11:30～

全体会 記念講演

演題 「子どもを支える親たちに学びつづけて -親が変わることの意味-

講師 広木克行 さん（大阪千代田短期大学学長）

《主催》 登校拒否・不登校問題全国連絡会

第16回登校拒否・不登校問題全国のつといに長崎実行委員会

《後援》

長崎県 松浦市 島原市 五島市 壱岐市 西海市 新上五島町 川棚町 長与町 時津町 佐々町 佐世保市教育委員会 対馬市教育委員会 雲仙市教育委員会 五島市教育委員会 西海市教育委員会 松浦市教育委員会 壱岐市教育委員会 島原市教育委員会 平戸市教育委員会 佐々町教育委員会 新上五島町教育委員会 東彼杵町教育委員会 波佐見町教育委員会 長崎県社会福祉協議会 他申請中

日 程

8月27日（土）

受付	はじめの つどい・ 記念講演	休憩・移動	分科会 基礎講座	休憩・移動	大交流会	各種交流会
11:00～ 12:30	12:30～ 14:35	14:35～15: 15	15:15～17: 15	17:15～18: 30	18:30～20: 30	20:30～

☆はじめのつどい 12:30～13:15

- ・オープニング 山口修さんによる ギター演奏 他
- ・あいさつなど

☆記念講演 13:15～14:35

- ・広木先生（表紙参照）

※分科会と基礎講座は同時並行して行われます。分科会については別表で確認してください。

☆基礎講座 15:15～17:15

①「家庭で」 講師 村上 公平 さん（親と子の教育相談室相談員）

親は「その時」どうしたらいいのでしょうか。どう考えたらいいのでしょうか。そして、担任の先生との接し方や学校とのかかわり方は？

②「学校で」 講師 高垣 忠一郎 さん（立命館大学教授）

学級に子どもが来なくなると教師は立ち止まります。休みがちな子ども・別室登校の子ども。心が見えない。親の思いもわからない。教師は自分自身と子ども・親とどう向き合うのか・・・？

8月28日（日）

分科会	昼食	休憩・移動	分科会	休憩・移動	おわりのつどい
9:00～ 12:00	12:30～ 13:00	13:00～15: 15	15:15～15: 00	15:00～15: 30	15:30～16: 00

参加費（18歳以下無料）

両日参加 4,000円（青年・学生2,500円）

一日参加 3,000円（青年・学生1,500円）

大交流会費

おとな 5,250円

子ども 4,200円（中学生以下）

宿泊費（一泊朝食付）

大人（中学生以上） 7,350円

こども（小学生） 5,150円

28日の弁当（お茶付） 1,000円

※前泊、後泊の場合も料金設定は同じ。

全日程参加の場合の費用（おとな）

参加費（4,000円）＋宿泊費（7,350円）＋大交流会費（5,250円）＋弁当代（1,000円）
＝17,600円

分科会

① 小学生の

登校拒否・不登校

幼稚園・保育園(所)への行きしぶり、入学早々の登校しぶりや学年途中で行きにくくなった子どもが増えています。いじめがきっかけになる場合もあります。休んでしまうと長引かないかと心配になります。親と子のかかわり、学校とのかかわりなどについて語り合しましょう。

② 中学生の

登校拒否・不登校

学校生活の変化へのとまどいや息苦しさ、思春期特有の心の揺れ、友達や先生とのかかわり、進路のことなどがいっそう子どもの悩みを深めています。子どもの思い、親と子のかかわり、学校とのかかわりなどについて語り合しましょう。

③ 高校生の

登校拒否・不登校

高校での登校拒否・不登校は中退につながる場合があります。一方、中学まで学校に行けなかった子どもが、高校生活の中で自分と向き合えるようにもなります。将来への不安、生き方についてどう関わればいいのか。さまざまな高校教育のあり方についても語り合しましょう。

④ 障がいがある子どもの

登校拒否・不登校

子どもに障がいがある、または、あるかもしれないと悩んでいる親と教師、関係者が交流しましょう。発達障がい(高機能自閉症・アスペルガー症候群、ADHD・LDなど)についても、専門家を交えて、悩みや不安を出し合しましょう。

⑤ 学校との

かかわり・学校づくり

子どもの成長・発達を見つめ、学校に行けない、行きづらい子どもを支えるために、親や教師は何か出来るでしょうか。ともに手をつなぎ、子どもが主人公の学校を作っていくにはどうすればいいのか、語り合しましょう。

⑥ 青(成)年期の

ともに生きる

A 義務教育を終えると、学校の「しぼり」から解かれる一方、どこにも所属しない不安があります。10代後半からの思いや悩みをどう受け止めるかを語り合しましょう。

B 人や社会とのかかわりに困難を抱えていたり、いわゆる「社会的ひきこもり」といわれる青年期・成人期の本人・家族の悩みを語り合しましょう。

⑦ さまざまな

進路・自立に向かって

学校に行けなくなると、進学や就職、将来の生活まで閉ざされてしまうのではと不安になります。自分をじっくり見つめることも、自立への大切な営みではないでしょうか。自立とは? さまざまな進路とは? たっぶり語り合しましょう。

⑧ 居場所とは

A 学齢期の子どもが安心できる居場所とは? 行政の適応指導教室のあり方なども含め、子どもや親の願いに応えられる居場所について語り合しましょう。

B 青年が安心して集まり交流できる「場」とは? 自立に向けてどんな支援や援助体制が求められているのでしょうか。また親には何か出来るのでしょうか。行政への働きかけなど、それぞれのを語り合しましょう。

⑨ 親・家族の役割

と家庭づくり

子どもの成長・自立を支える最大の援助者は親です。家庭が安心できる場になると、子どもは落ち着き、立ち上がります。親の生き方や価値観が問われることもあります。親や家族はどう子どもを見守ればよいのでしょうか。交流し、語り合しましょう。

⑩ 手をつなぐ輪を広げて

我が子の登校拒否・不登校に悩む親たちが、地域でどう手をつないでいけばいいのでしょうか。「親の会」の活動のあり方は? 地域の「親の会」と相談機関や学校・行政とのかかわり、専門家との連携などについても語り合しましょう。

⑪ 医療・福祉とのかかわり

いつもと少し様子が違う、気にかかる行動があるなど、医療的なケアが必要ではないかと思う場合、どのように対応し、どんな相談・援助を求めればよいのでしょうか。専門家を交えて語り合しましょう。

⑫ 登校拒否・不登校

と「非行」

「学校に行けない」「行きたくない」「居場所がない」「学校が入れてくれない」など、息苦しさを「非行」という行動で表現する子どもたちの心の叫びをどう受け止め、どうかかわっていけばいいのでしょうか。「信じて待つ」とは・・・家庭・学校・その他の機関との連携についても語り合しましょう。